

プラスチック容器包装の資源循環 2030宣言

2019年5月30日

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

プラスチック容器包装の資源循環 2030宣言

**プラスチック容器包装の3 R + Renewable
(持続可能な資源) 等で、
100% 資源の有効利用を目指します。**

当協議会は、容器包装リサイクル法（以下、容リ法）で、プラスチック容器包装（以下、プラ容器包装）の再商品化義務を負う特定事業者である約100の企業および業界団体を主な会員としてプラ容器包装の3Rを推進している団体です。

当協議会は、特定事業者の立場から、これまで容リ法の運用に積極的に協力するとともに、問題点などについては官公庁や関係諸機関に意見具申してきました。

当協議会は、容リ法の特定事業者の団体として、これまでの様々な取組みの実績や知見、プラスチック資源循環戦略を踏まえ、2030年に向けた当協議会の自主的取組みを宣言します。

今後、当協議会は、この2030宣言を基軸に、関係各主体とも連携して、プラ容器包装の3Rを推進し、プラスチック資源循環に貢献していきます。

プラスチック容器包装の資源循環 2030宣言

プラスチック容器包装の3 R + Renewable
(持続可能な資源) 等で、
100% 資源の有効利用を目指します。

取組みの項目

取組みの項目

プラスチック容器包装の3 R + Renewable（持続可能な資源）等で、100% 資源の有効利用を目指します。

I.リデュースに関する取組み

1. エコデザイン・環境配慮設計で推進します。
2. 普及啓発と主体間の連携で、プラスチックとの賢い付き合いを深めます。
3. 第1次～第3次自主行動計画を踏まえ、自主的取組みにより推進します。

II.リサイクルに関する取組み

1. 効果的、効率的なリサイクルシステムの研究や実証などに協力します。
2. リサイクル手法の改善、効率化の研究や情報収集および実証への協力などに取り組みます。
3. デザインの改善を推進すると共に、リユース、リサイクル、有効利用の取組みを推進します。

III.再生材、バイオプラスチックの利用拡大

1. 特定事業者等の再生材利用の促進を図ります。
2. 再生材、再生製品の用途、フローなどの実態調査を推進、協力します。
3. 再生材の安全性確保に関する情報収集及び関連業界との情報交換を進めます。
4. バイオプラスチック（以下、バイオプラ）普及ロードマップに沿った自主的取組みを推進します。

IV.海洋プラごみ対策への取組み

1. ポイ捨て防止の最重点項目である、一人ひとりの行動変革を促す啓発活動に、当協議会も積極的に参加、協力していきます。
2. 海ごみゼロを目指し、学術研究や各種の実証事業に支援、協力します。

I. リデュース に関する取組み

1. エコデザイン・環境配慮設計でリデュースを推進します。

1) 「プラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針（以下、環境配慮設計指針）」（2015年10月策定）に沿って、下記の課題への取組みを推進。

- ① プラ容器包装の機能・特性を保ちつつ、軽量化、薄肉化、簡素化など構造やデザインを改善。
- ② 再生材・バイオプラ等の再生可能資源、Renewable素材の活用を推進。
- ③ 自主行動計画のフォローアップ（以下、FU）結果を公表。

2) 3R改善事例集の充実・深化と情報共有による改善を推進。

3) 容器包装の利用・製造事業者の連携と情報共有の深化。

I. リデュースに関する取組み

2. リデュースの普及啓発と主体間の連携で、プラスチックとの賢い付き合いを深めます。

1) プラ容器包装・製品の機能・役割の適切な評価と情報提供など普及啓発。

- ① 食品包装による賞味期限、消費期限の長期化など食品ロスの削減等による環境負荷低減効果のLCAなどによる評価の推進、協力。

2) 消費者・行政・学識者等への情報提供や連携等で各主体の理解を深化。

- ① 市民・自治体と事業者の意見交換会などの継続推進。
- ② バリューチェーン(以下、VC) の連携・協働による情報提供、普及・啓発。
- ③ 各種の普及・啓発ツールの作成、提供。
- ④ 各種報道機関や関連諸機関との情報交換強化。

3) 経産省、環境省、農水省などの行政および関係諸機関との連携、情報共有。

4) 製品プラスチック関連業界・業種との情報共有などネットワークの構築と連携。

- ① 製品プラの情報収集および課題整理。
- ② 関連業界・業種との意見交換および課題検討。

I. リデュースに関する取組み

3. 第1次～第3次自主行動計画を踏まえ、リデュースを自主的取組みにより推進します。

1) 第4次、第5次自主行動計画を通して段階的に推進。

(第4次計画の具体的な施策は、2019年度中に策定)

2) 集計方法の精度向上。

3) 未参加業種への参加呼びかけ。

4) 容器包装製造事業者の素材・製品別各種データを集計。

5) FU集計の結果を公表。

(3R推進団体連絡会及び当協議会)

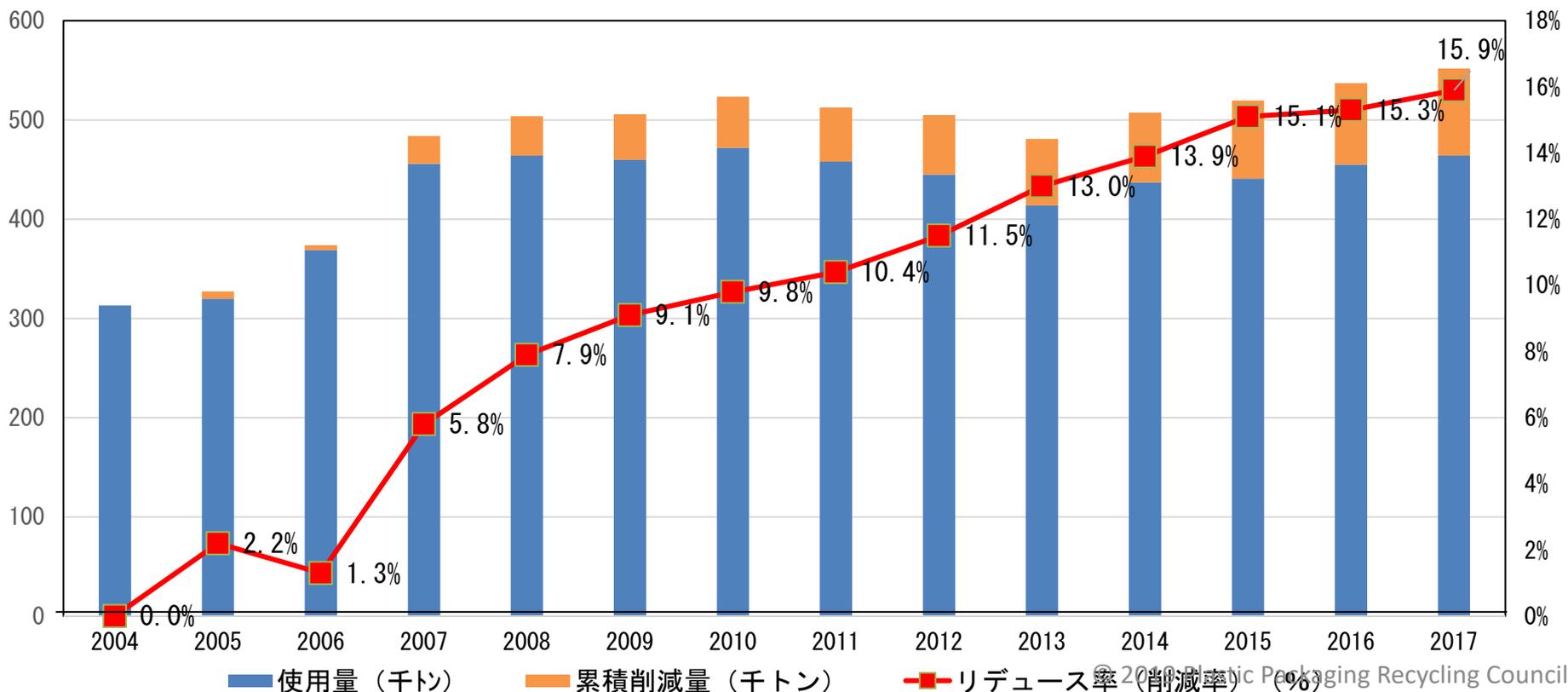
I. リデュースに関する取組み

第1次～第3次自主行動計画でのリデュース率

	2017年度実績	2016年度実績
当該年度削減量(トン)	5,650	3,501
累積削減量(2006～)(トン)	87,718	82,068
当該年度使用量(トン)	463,973	454,584
リデュース率(%)	15.9%	15.3%

集計対象団体

日本植物油協会	日本乳業協会	日本パン工業会
日本冷凍食品協会	全日本菓子協会	日本即席食品工業協会
日本石鹼洗剤工業会	全国マヨネーズドレッシング類協会	日本衛生材料工業連合会
全国清涼飲料連合会	日本アイスクリーム協会	日本製菓団体連合会
精糖工業会	日本化粧品工業連合会	日本生活協同組合連合会



Ⅱ. リサイクルに関する取組み

1. 効果的、効率的なリサイクルシステムの研究や実証などに協力します。
 - 1) 効率的な収集と選別技術の開発に関する情報収集や実証事業への協力。
 - ① プラ容器包装・製品の収集・選別・リサイクルの関連技術、しくみの改善・効率化などの情報収集、課題整理および実証への協力。
 - 2) 店頭回収や拠点回収の実態把握、課題整理および対策検討。
 - ① 店頭回収や拠点回収の実態把握と課題整理および実証への協力。
 - ② 新たな回収システム検討に向けた、市民、自治体との意見交換など。

Ⅱ. リサイクルに関する取組み

2. リサイクル手法の改善、効率化の研究や実証への協力および情報収集などに取り組みます。

1) リサイクル手法の評価と組合せに関する具体策の検討や協力。

- ① 手法別再生品の品種・品質、収率、価格、用途と利用状況等の調査。
- ② 材料リサイクル（MR）、ケミカルリサイクル（CR）技術開発への協力および実用化支援（NEDOの先導研究等への協力）。
- ③ サーマルリカバリー（TR：熱・エネルギー利用）の定義などの検討。
- ④ リサイクルの未発掘技術等の情報収集・共有と、実用化や新市場開拓の支援、協力。
- ⑤ 複合素材のリサイクル適性に関する検討および情報提供、普及啓発。

2) 事業系・産業系廃プラのリサイクルに関する情報収集。

3) 効果的、効率的なリサイクルシステムにおける各主体の役割などの検討。

Ⅱ. リサイクルに関する取組み

3. プラ容器包装のデザインの改善を推進するとともに、リユース、リサイクル、有効利用の取組みを推進します。

1) リユース、リサイクル、有効利用に向けたプラ容器包装・製品のデザインの改善と機能の確保を推進。

- ① 多様なプラ容器包装・製品のリユース、リサイクルや有効利用に関する検討。
- ② 環境配慮設計指針へのリサイクル自主設計ガイドラインの追加検討、作成。
- ③ 3 R 改善事例集など、改善事例の情報収集および提供。

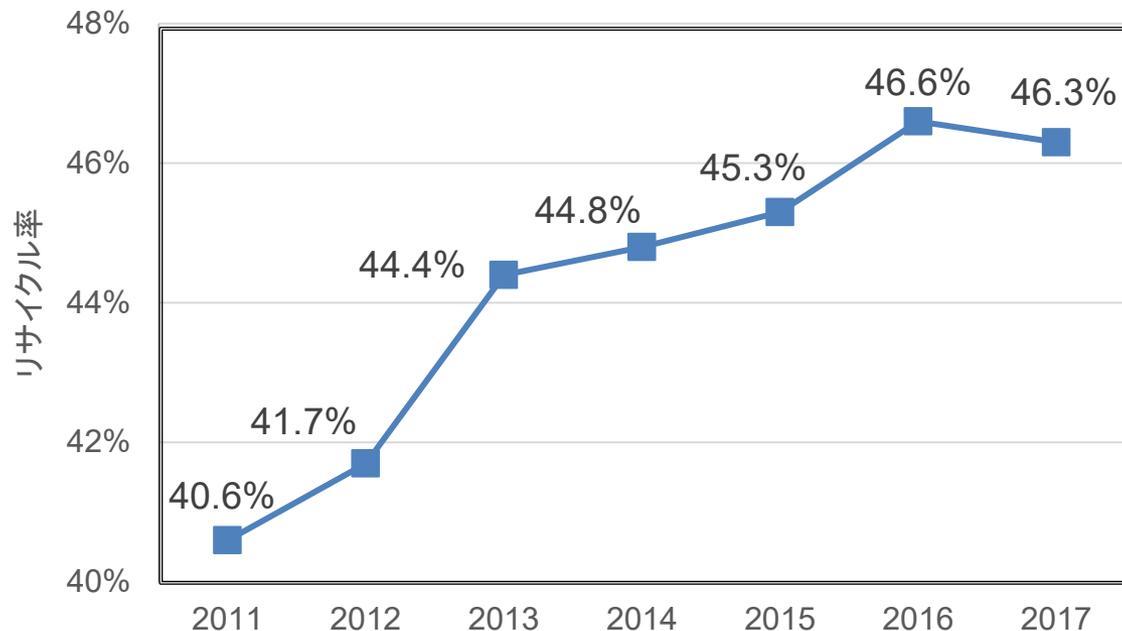
2) 第1次～第3次自主行動計画を踏まえた自主的取組みで推進。

- ① 第4次、第5次自主行動計画を通して段階的に推進。
(第4次の具体的な施策は、2019年度中に策定)
- ② 現行容リ法のリサイクルの問題点の検討や改善への協力。
(MR優先入札制度、VC再構築、リサイクル手法の高度化等)

Ⅱ. リサイクルに関する取組み

第1次～第3次自主行動計画のリサイクル率

	2017年度実績暫定	2016年度実績
自主回収量(トン)	59,682	63,571
再商品化製品製造量(トン)(容リ)	439,012	438,658
再資源化量(自主+容リ)	498,694	502,229
再資源化率	46.3%	46.6%



主な自主回収品

- ・牛乳びんプラスチックキャップ
- ・宅配ガラスびんのキャップ
- ・PETボトルキャップ
- ・PSPトレイ
- ・卵パック
- ・透明容器
- ・内袋（生協通箱）

回収後の再利用

- ・材料リサイクル（トレイtoトレイ、ペレット、PSインゴット、エアクッション等）
- ・ケミカルリサイクル 等

$$\text{リサイクル率(\%)} = \frac{\text{再商品化製品製造量} + \text{自主的回収量}}{\text{排出見込み量(2011年) 1,077,186トン}}$$

Ⅲ. 再生材、バイオプラスチックの利用拡大

1. 特定事業者等の再生材利用の促進を図ります。

1) 再生材利用の拡大や代替可能な素材の導入などの情報収集および推進、協力。

- ① 再生材利用や代替可能な素材の導入に関する情報収集、提供と活用。
(ニーズとシーズの組合せ)
- ② M R、C Rの再商品化製品の用途拡大の支援、協力。

2) コンパウンダーを含むV C構築の推進および協力。

- ① 関連事業者間の競争が適正に機能する新たなV Cの構築の支援、協力。
- ② V Cの構築と関連事業者の連携など動脈と静脈事業者の連携推進。

3) 再生製品の開発や販売などのインフラ整備への支援、協力。

- ① プラスチック再生材、再生製品の標準化の支援、協力。

Ⅲ. 再生材、バイオプラスチックの利用拡大

2. 再生材、再生製品の用途、フローなどの実態調査に協力します。

- 1) MRおよびCR由来の再生材、再生製品の利用実態に関する情報収集および国や関係諸機関の実態調査への協力。

3. 再生材の安全性確保に関する情報収集及び関連業界との情報交換を進めます。

- 1) 食品衛生法の改正、PL制度の厳格化に関する情報収集、提供。
- 2) 各種の法制度などの関連情報の収集および関係機関等との交流。

4. バイオプラ普及ロードマップに沿った自主的取組みを推進します。

- 1) ロードマップに沿った情報収集および自主的取組みの推進。

- ① バイオプラ普及のロードマップに沿った情報収集および自主的取組みの検討。
- ② 焼却・分解が求められる場面等、バイオプラ利用推進への情報提供。

IV. 海洋プラごみ対策への取組み

1. ポイ捨て防止の最重点項目である、一人ひとりの行動変革を促す啓発活動に、当協議会も積極的に参加、協力していきます。

1) 当面の最重点課題である陸域からのプラごみの流出防止を推進。

- ① 国の海ごみゼロキャンペーンと連動して、「プラ推進協・海ごみゼロキャンペーン」を展開し、会員団体・企業の自主的取組みを推進。
- ② 川ごみネットをはじめ民間の海、川ごみの収集活動にも参加。

2. 海ごみゼロを目指し、学術研究や各種の実証事業に協力します。

- ① 海ごみに関する学術研究や各種の研究・実証事業などへの支援、協力。
- ② 国および関係諸機関等の取組みへの参画、協力。
- ③ 事業者の自主的取組み（ペレット等の飛散・流出防止など）への協力。